

## 自然再生事業（水産復興対策調査事業） ～藻場の造成事業の取り組み～

魚たちの産卵・生息場としてアマモ場を育成することで、魚介類の水揚げ向上や自然の復元が可能となります。育成事業ではアマモの種子散布、発芽、生長、開花等の生育過程や、生育するための底質環境を理解する必要があります。例えば、種子が発芽するには孢子が海底に付着する必要があるため、底質の粒度組成や硬軟、海流の流れ、水温や光量等の物理化学的性質が重要となります。この調査では、アマモが繁茂しているアマモ場内と、そうでないアマモ場外における環境の相違を調査し、アマモ育成に適した環境を調べました。



アマモ場を育成すると魚たちが帰ってきます。

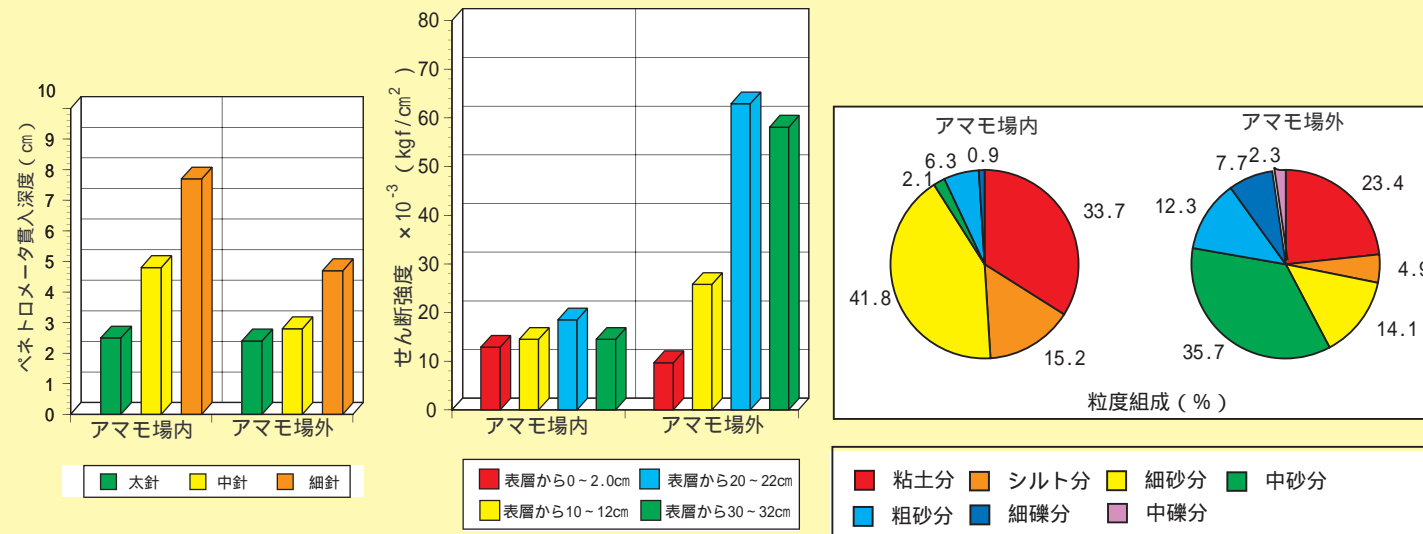


(写真) アマモ場の風景

### アマモ育成に適した環境とは？

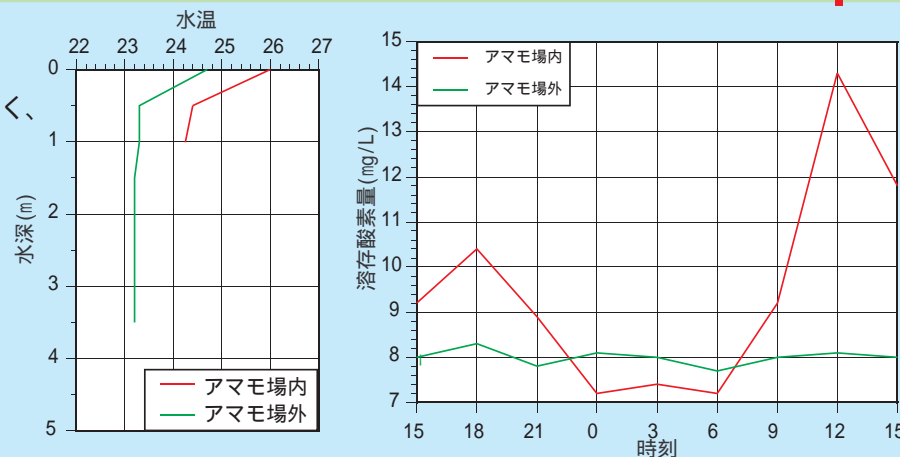
#### 底質

- ・アマモ場内の底質は砂泥質であり、粒度組成はアマモ場外に比べ大きい粒子が少ないです。
- ・アマモ場内はアマモ場外に比べペネトロメータ貫入深度が大きく、また、せん断強度は小さく深度方向の“柔らかい”底質の範囲が大きいことを示しています。



#### 水質

アマモ場内はアマモ場外に比べ水温が高く、日中は光合成が活発となり、溶存酸素量が増加し、日中は夜間の2倍にまで増加しています。また、深度の特徴から、アマモは浅瀬に生育していることがわかります。これは、太陽の光が届く光量との関係があるものと考えられます。



#### 海流の流速

流速ベクトルは、海底から0.5mの地点を測定しています。アマモ場内はアマモ場外の流れの速さを比べると、1/2程度と小さく、10cm/sec内外の流速環境が理想的と判断されます。

